

戦後80年 ひこばゆ特別企画

あの戦争を忘れない

シリーズ1 この地域の「戦争」をたどって～80年目の証言～

戦争が終わったのは小学校1年生のころ。戦争が終わるまでは防空用の頭巾を毎日もっていた。当時は厳しい時代で、とにかく食べられるものは食べたね。コメも、麦飯やサツマイモを混ぜた芋飯などにして、白いご飯なんてほとんど食べられなかった。私の家は農家だったから、これでも食べるものには困らない方だった。とにかく厳しい時代だったよ。父は中国へ7年、軍人と



齋藤静雄さん (88歳)

第二次世界大戦の終戦から、今年で80年を迎えます。時代とともに薄れゆく戦争の記憶ですが、決して忘れてよいものではありません。あの戦争を忘れず、その悲惨さを次代へとつたえるために、この地域と「戦争」

もしも少し早く生まれていたら…

して行っていて、聞いた話だと、軍人の差別は確かにあったみたい。軍の階級が低い人間は、向こうの子どもにもちよっかいをかけるれるほどぞんざいに扱われて、位が高くなって上等兵くらいになると普通に過ごせたようだよ。当時は戦争のため鉄が不足して、いろんなものを鉄に変えたよ。お寺の釣鐘を外して鉄に変えたり、家の格子にも釘とかが使われているから、それさえも外して持って行った。それもすごいことだけれども、もっとすごいのがね、空襲の艦載機が掃射した銃の薬莖を拾って鉄に変えていたよ。空襲警報が鳴って隠れて、そのあとにさるをもつ

て葉を拾い集める。こんなこと全然知らないでしよう？ そんなことをしてる人がたくさんいたよ。そういういえば、木更津の太田山にアメリカの飛行機が落ちて、それを見に行ったことがあってね、当時は竹やりなんかを持って行ったよ。乗っていた軍人さんもろとも墜落したから、人の焼けるいやなにおいが出てたよ。あれは本当に嫌なおいでね。こう言っただけで、生まれた時代は運がよかつたと思う。もう少し生まれが早かったら戦争に駆り出されていたらどうから。そういう意味では、あの時に生まれて運がよかつたと思う。厳しい時代が続いたけ

る場所はあるけど、今の中央公民館の周りなんかは田んぼしかなかったから。学校の帰り道で警報が鳴ると、「とにかく隠れなくちゃ」とことで、田んぼ道の陰に身を丸めて、なんとか隠れてたよ。防空壕も、当時は家の庭に自分たちで掘っていたんだよ。そんなに広くもないし、丈夫でもない。でも、自分の家にいるとき空襲がきたら、その穴に逃げ込んで、ロウソクの小さな明かりだけでやり過ごすんだ。ロウソクだけじゃなくて、松の木を切って、その油を採って火をつけたりしたね。そんなことをするから、松の木もずいぶん枯れたよ。防空壕っていつても、自分たちで庭に掘ったものなんかは、縦に穴を掘って、の。航空機からの攻撃は、れど、景気のいいころに働けたし、高等学校まで出させてもらったから。めいっばい働いて、今ようやく趣味なんかを楽しめるようになってよかつたと思う。戦争ってのは、本当にしちゃいけない。戦争は、人の「殺しっこ」だから。殺して殺されてのね。それをやっちはいけないよ。

真下へじゃなくて斜めに降ってくる。だから、穴は下へと掘って行って、その深い部分に子どもが逃げて、その上に親が逃げて、少しでも安全な場所に逃がしてくれていたね。でも、丈夫じゃないから、近くに爆弾なんか落ちるとすぐに崩れそうになるんだよ、ヒヤヒヤしたね。今は区画整理が進んで、家も変わったりしたから、庭の防空壕なんて見なくなっちゃったよ。あと食べ物もひどかつた。すいとんなんて、だしも醤油も味噌もない。ただ粉を練ったものをお湯にいれただけ。それでも、それを食べていたね。今は本当にいい時代になったよ。戦争は本当に駄目だよ。二度とやってはいけない。今、日本では戦争がなくて、こうして平和に公民館に集まれる。こうして笑って将棋を指せる。それって本当にうれしいことだよ。当時を生きた方々から語られた、写真や映像には残っていない戦争の日々。当時を生きた方々の記憶を風化させることなく次代へとつなげ、誰もが平和に暮らしていけるように、これから一緒に考えていきましょ



発行
君津中央公民館
君津市久保2-13-2
TEL.0439(50)3980
FAX.0439(54)9888



平野清さん (久保 88歳)

自宅の防空壕に逃げ込んで…

防空壕には苦労したよ。本当にいつ来るかわからないし、山間の地域はまだ隠れてたよ。

自治会長随想⑤

下湯江魂

下湯江自治会長 福原 和宏



4世代9人 同居家族 毎日が大騒ぎ!!

下湯江地区の昔からの家は、仕事の関係が津から出て行って家を建て、なかなか帰ってこないケイが目立っています。しかし、新興住宅地は子育て世代に人気か、多くの世帯が引っ越してきています。自治会加入率も高く活動に協力的です。お祭りの太鼓の練習では小学生の上級生と下級生を分けないと青年館に入りきれません。宵祭では親御さんが料理の作成・接客、お祭りでは「おはながみ」で、お花を大量に作ってくれたり、子ども神輿の運搬や子ども達



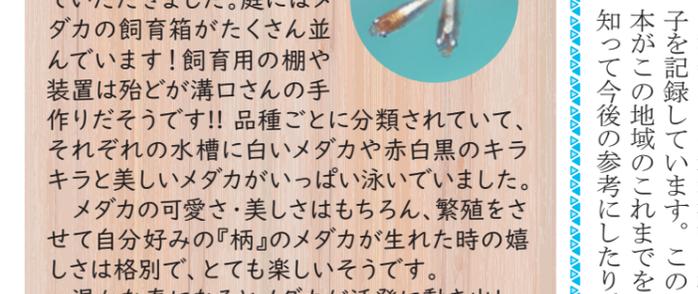
元気な下湯江の子ども達

お庭を拜見!

部 溝口さん宅

メダカに夢中!～水温む頃には～

さて、今回は「うち、メダカがいっぱいだよ」と伺ったので、さっそく取材させていただきました。庭にはメダカの飼育箱がたくさん並んでいます! 飼育用の棚や装置は殆どが溝口さんの手作りだそうです!! 品種ごとに分類されていて、それぞれの水槽に白いメダカや赤白黒のキラキラと美しいメダカがいっぱい泳いでいました。メダカが可愛さ・美しさはもちろん、繁殖をさせて自分好みの『柄』のメダカが生れた時の嬉しさは格別で、とても楽しいそうです。温かな春になるとメダカが活発に動き出し、産卵も始まるので「どんな柄のメダカがふ化するか、今から待ち遠しいです」と、希望に満ちた笑顔で語ってくれました。



懇談会の様子 (自治会長の皆さん)

編集後記

今号も多くの方にご協力いただきました。お礼申し上げます。地域にあるものを次の世代へつなげられるよう、次号も地域密着で頑張りたいと思います。ぜひお楽しみに。(安西)

の安全見守などを率先してやっていただけだりしています。祭りの後も協議で「お祭りはとても良かった」「来年の出し物はこんな感じでしよう」との感想や希望は嬉しい限りです。つまりはお祭りが地域のつながりを取り持ってくれているのです。(まさに和衷協同※) 未来の地域を担う子ども達が地域に愛着を感じ、その子ども達を支える大人が希望と元気をもらおう、そんな明るい力が地域の活力となり未来へ繋げる。「下湯江魂」

今作成している記念誌「変」は、公民館開館50周年からの10年に焦点をあてたものになっています。この10年間は、令和元年の台風で甚大な被害を受けたり、新型コロナウイルスの影響

で、それ以前までの生活様式がガラリと変わったりと、本当に様々なことがありました。記念誌のタイトル「変」の由来は、台風やコロナの影響で大きく「変化」したものと、そのような状況下でも「不変」の価値をもつもの両方に注目した記念誌であり、皆さんも手に取ってみたいくなるように、という願いも込めて、「変」の一字をつけました。この記念誌は、中央公民館エリアの10年を見つめ直し、地域の移り変わりや、自治会などの地域活動の様子を記録しています。この本がこの地域のこれまでを知って今後の参考にしたり、

今までの活動をよりよく変える力になれるよう、編集に力を入れたりしています。発行をお待ち下さい。

読者からの一言

公民館にこんな声を届けていただきました!

ペンネーム
散歩好きのアダチ 人生、毎日毎日、ガンガン燃え上がりっぱなしじゃ、くたびれるってもんだ。若いうちは、ガンガン燃えてもやれるけど、還暦過ぎたら、培ってきた経験と技を駆使して「熾火」(おきび)のように、深く厚く想いを込めてやっていけばいい。熾火を絶やさずにいれば、ここぞという場面で、薪をくべれば、パパパッと燃え上がることができると燃え上がる。だから、熟年に向かう時のキーワードは「熾火」。

【社会の善き熾】になろうじゃないか。遠赤外線効果が染み渡るように。



20歳のつどいを開催し、88名の皆さんが参加しました。会場では、公民館利用サークルの方々に迎え花の準備や着付け直しなどのご協力をいただきました。また、来賓の皆様にお祝いの言葉をいただきました。

応援2 20歳の門出 決意新たに 令和7年周西南中学校区20歳のつどい開催

1月12日、周西南中学校区20歳のつどいを開催し、88名の皆さんが参加しました。会場では、公民館利用サークルの方々に迎え花の準備や着付け直しなどのご協力をいただきました。また、来賓の皆様にお祝いの言葉をいただきました。



20歳のつどい実行委員の皆さん

それぞれの夢に向かって20歳のつどい。実行委員長 茂呂 果忍、副委員長 島田先生から「今自分たちにできることを全...

春から新生活！ 春から大きく環境が変わる方も多いのではないのでしょうか？この地域の方でも、まさに新生活を控える期...

80歳からピアノに挑戦！ 優しい笑顔が印象的な女性にお声がけしたところ、「80歳から独学でピアノを始め、簡単な曲だけれど何曲か弾けるようになったのよ」ともニコニコ。...

特集 がんばる あなたを 応援したい!!

春の訪れとともに、夢を追いかけるあなたへ。アレッタ 大鐘 真希。アレッタ君津は、平成30年2月に開所し、就労継続支援A型事業所として障がいのある方に就労の機会を提供するとともに、色々な作業や人との関わりを通じて自分自身の発見やスキルアップをしていただく場所となっております。



地域では、様々な人々の挑戦をサポートする取組が行われています。昨年3月「ひこぼゆ」374号で紹介した、『モンソレイユ』と『ミツバ園』に続き、今号では、この地域にある2つの障がい者就労継続支援事業所の方々に特集したいと思います。

作業内容は、お弁当の盛り付けや仕込み、その他畑での農作業やパンの調理PC作業などがあります。それぞれの利用者の個性や特性を生かした作業を、ご本人と指導員と一緒に考え見つけ、行っています。

私たち「約束の樹」は福祉事業所として、就労支援B型事業所の運営、そして昨年よりスタートした地域支援センターⅢ型事業所等を行っています。

新たなステップへ 約束の樹 貞元 平尾 一晴。私たちが「約束の樹」は福祉事業所として、就労支援B型事業所の運営、そして昨年よりスタートした地域支援センターⅢ型事業所等を行っています。

助けあい・支えあい広場 「あいあいカフェ」 地域の障がい者就労継続支援施設の皆さんと、運営ボランティアと一緒に作るちっちゃなカフェです。 第1(木) モンソレイユDay 第2(木) 約束の樹Day 第3(木) モンソレイユ/アレッタDay 第4(木) ミツバ園/約束の樹Day 11:00～ ドリンクコーナーオープン 11:30～ パン等販売スタート

君津中央公民館や清和地区にある「おらがわ」へも販売エリアを広げ多くの人たちへも販売の理解を深めたい。...



いらっしゃいませ～